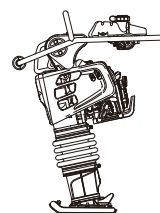




タンピングランマー

MTX-60E/FE
MTX-70E/FE
MTX-80E/FE
MTX-90E/FE



取扱説明書

ja

三笠製品をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用前に本書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に保管してご利用ください。



<http://www.mikosas.com>

301-01615



目 次

1	はじめに -----	1
2	機械の用途と警告、及び構造と動力伝達 -----	1
3	警告サイン -----	2
4	安全のための注意事項 -----	2
	4.1 一般的な注意事項	2
	4.2 給油中の注意事項	2
	4.3 使用場所、換気に関する注意事項	3
	4.4 作業前の注意事項	3
	4.5 作業中の注意事項	3
	4.6 リフティング時の注意事項	4
	4.7 運搬・保管に関する注意事項	4
	4.8 整備上の注意事項	4
	4.9 ラベルの取付位置	5
	4.10 警告ラベルの絵文字説明	6
5	仕様 -----	7
	5.1 本体仕様	7
	5.2 エンジン仕様	7
6	外観図 -----	7
	6.1 外観寸法図	7
	6.2 コントロール装置位置及び装置名称	8
7	運転前点検箇所 -----	9
8	運転 -----	10
	8.1 始動	10
	8.2 運転	11
9	停止 -----	12
10	手入れと保存 -----	12
11	定期点検と調整 -----	13
	11.1 各部点検スケジュール表	13
	11.2 点検及び作業内容	13
12	トラブルシューティング -----	15

1. はじめに

- この取扱説明書は、タンピングランマーの正しい取扱方法、簡単な点検及び手入れについて記載してあります。本機の優れた性能を生かし、お仕事の能率を上げ効果的な作業を進める為に、**ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さい。**
- お読みになった後も**必ずお手元に保管**し、分からない事があった時には取り出してお読み下さい。
- エンジンの取扱に関しては、別途**エンジン取扱説明書**を参照して下さい。
- 補修部品、パーツリスト、サービスマニュアル及び修理に関しては、販売店・当社各営業所もしくは三笠部品サービスセンターにお問い合わせ下さい。なお、パーツリストは当社ホームページ <http://www.mikasas.com/> の三笠 WEB パーツリストでも公開しております。是非ご利用下さい。

この取扱説明書に記載されているイラストが、設計変更等により一部実機と異なる場合があります。

2. 機械の用途と警告、及び構造と動力伝達

【用途】

本機は、小型軽量ながら打撃力が強く、大きな締め固め効果を期待できます。

水分の多い軟弱土以外の殆どの土質に対して締め固め効果があります。

道路、堤防及び建築物の基礎など締め固め工事ならびにガス管・水道管・ケーブルなどの埋め戻し工事に使用します。

【誤用途、誤使用の警告】

本機は杭打ち作業や岩盤など機械の能力以上に締め固まっている硬い地面に使用してはいけません。また、土手の法面など傾斜の大きな地面での使用は、本機が不安定になり事故の原因や本機へ無理な力が加わることによる早期故障の原因となります。

土砂・土・砂・砂利及びアスファルトの輾圧に使用し、それ以外の作業に使用してはいけません。

【構造】

本機のウェイトとなる本機上部は、原動機部・減速機部・往復運動部のガイド部分ならびに防振ゴムを介して連結されたハンドル・燃料タンク部で構成されています。

地面を打撃する本機下部は、摺動運動を行うスプリングケース部・本機を前傾させる傾斜部・フート部及び摺動部を覆うベローズ・プロテクトスリーブから構成されています。

【動力伝達】

原動機として空冷単気筒エンジンを搭載し、エンジン出力軸には遠心クラッチが取り付けられています。使用エンジンは、4サイクルガソリンエンジンです。

エンジン回転数を上げると遠心クラッチが繋がり、クラッチドラムと一体のピニオンギヤと本機側クランク軸と一体のギヤにより、輾圧に必要な回転数に減速します。

本機クランク軸の回転運動は、コネクティングロッドにより往復運動に換えられます。この往復運動は、一対の強力なコイルスプリングを介してフートを上下運動させます。本機の重量と強力なスプリングの圧縮力によりフートを動かし、強力な突き固め力で地面を打撃します。

3. 警告サイン

本取扱説明書及び本機に貼り付けてあるラベルの⚠マークは警告サインです。安全上、必ず厳守して下さい。

⚠ 人体に対する危険がある場合の警告サイン

⚠ 危険 指示を守らないと、死亡又は重大な傷害事故が生じる危険性が極めて高い場合

⚠ 警告 指示を守らないと、死亡又は重大な傷害事故が生じる危険性が有り得る場合

⚠ 注意 指示を守らないと、怪我や傷害事故が生じる可能性がある場合

注意 (⚠マーク無し) 指示を守らないと、物的な損害が発生する可能性がある場合

4. 安全のための注意事項

4.1 一般的な注意事項

⚠ 警告	●こんな時は作業をしない。 ○過労や病気等で体調が悪い時。 ○薬物を服用している時。 ○飲酒をした時。	
⚠ 注意	●取扱説明書を良くお読み頂き、正しい取扱で安全に作業を行って下さい。 ●エンジンの取扱は別紙エンジン取扱説明書を参照して下さい。 ●本機の構造を充分理解して下さい。 ●作業を安全に行うために、防護具（ヘルメット、ゴーグル、安全靴、耳栓等）を着用し、適切な作業服で作業して下さい。 ●常に機械を点検し、正常であることを確認してから運転して下さい。 ●本機の貼付銘板（操作方法・警告銘板等）は安全を守るために非常に重要です。本機を清掃し、常に読みやすい状態を保って下さい。読みにくくなった場合は、新しい銘板に交換して下さい。 ●幼児等が触れると大変危険です。保管方法、保管場所には充分注意して下さい。 ●整備する場合は必ずエンジンを停止させてから行って下さい。 ●三笠純正部品（フート ASSY 等）を使用しない場合や、改造及び修正を加える事で発生した如何なる事故・故障に関して、当社は一切責任を負いません。	  

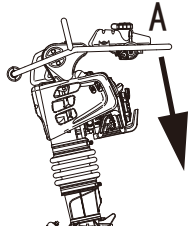
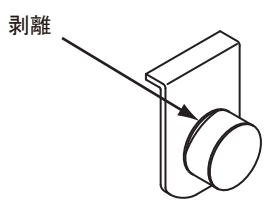
4.2 給油中の注意事項

⚠ 危険	●燃料を給油する時 ○必ず換気の良い場所で行って下さい。 ○必ずエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから給油して下さい。 ○周囲に可燃物の無い平坦な場所を選び、こぼさないように注意して下さい。こぼれたら良く拭き取って下さい。 ○給油中は絶対に火気を近付けないで下さい。（特にタバコを吸いながらの給油は厳禁） ●燃料は口元一杯まで入れるとこぼれる可能性があり危険です。給油レベルはエンジン取扱説明書に規定された量を守って下さい。 ●給油後は、タンクキャップをしっかりと締め込んで下さい。	
------	---	---

4.3 使用場所、換気に関する注意事項

⚠ 危険	●室内、トンネル内等換気の悪い場所では使用しないで下さい。エンジンの排気ガスには、有害な一酸化炭素等が含まれており、大変危険です。 ●火気のある傍での運転はしないで下さい。	
--------------------	---	---

4.4 作業前の注意事項

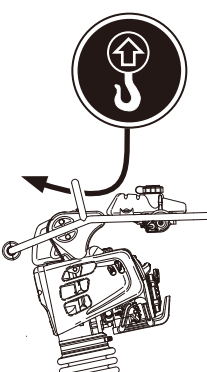
⚠ 注意	●運転前点検を必ず行って下さい。 ●各部分の締付具合を点検して下さい。振動でネジが緩んでいと思わぬ大きな故障の原因となります。ネジはしっかりと締め付けて下さい。 ●ハンドル後端を右図(A)のように押し下げ、防振ゴムの破損がないことを確認して下さい。もし破損が発見された場合は、左右の防振ゴムをセットで交換して下さい。	
	   ①防振ゴムの亀裂 ②防振ゴムの鉄板とゴム部の剥離	

4.5 作業中の注意事項

⚠ 注意	●長時間の使用は、はくろう病等に注意が必要です。本機は振動機械の為、長時間の運転は人体に悪影響を及ぼします。充分な間隔を空け使用して下さい。 ●本機を始動したり作業するときは、周囲の人や障害物に対して安全であることを確認して下さい。 ●エンジン始動時は、急に本機が飛び跳ねることがありますので、片手でしっかりとハンドルを握りながら、リコイルを引いて下さい。 ●常に足場に注意し、本機のバランスを保てる無理の無い安定した姿勢で作業して下さい。 ●運転中は、輻圧盤(フート)に足が近づかないように注意して下さい。輻圧盤に足を踏まれ、怪我をする危険があります。 ●エンジン本体、マフラー及びマフラーカバーは高温になりますので、運転直後等の熱い時は触れないように注意して下さい。 ●運転中や移動時、停止時等に本機の調子が悪くなったり、異常に気付いた場合は 直ちに作業を中止して下さい。 ●本機から離れる場合は、必ずエンジンを停止させて下さい。また本機を移動する場合もエンジンを停止させて下さい。スロットルレバーは、停止位置で燃料のコックが閉じられた状態ですので、停止位置から動かさないで下さい。 ●ハンドルを持って本機を持ち上げる場合は、ハンドルと本機の間に指や手を挟まないように注意して下さい。	 
⚠ 危険 転倒注意	●作業中・停止中・保管中に、転倒しないよう充分注意して下さい。特に作業中のみならず、保管時に本機が転倒しないよう、ロープ等を利用してしっかりと固定して下さい。幼児等が近づいた際に転倒すると、思わぬ事故の恐れがあります。また衝撃板(フート)が磨耗すると特に不安定になりますので、磨耗が著しいときは、フートを新品に交換して下さい。 ●作業中に本機が転倒しますと、本機は倒れたままフートのキック力により前進します。路盤が固い場合、かなりのスピードで走り危険な状態になります。運転者及び周囲の人々の安全を確保しながら、スロットルレバーをエンジン停止位置に戻し、本機の運動が停止した事を確認して下さい。特に、道路上では、予想外の大きな事故を誘発する恐れがありますので、作業現場の安全に充分配慮して下さい。	

4.6 リフティング時の注意事項

クレーンによる積み下ろし作業は資格が必要です。クレーンの運転・玉掛け作業の資格がある人が行って下さい。

⚠ 危険	●吊り上げ作業に対し、本機部品（特にフック・防振ゴム）の損傷やネジの緩み・脱落が無く安全である事を確認して下さい。 ●吊り上げ時はエンジンを停止させて下さい。 ●強度の十分なワイヤーロープ等を使用して下さい。 ●安全の為、必要以上の高さには吊り上げないで下さい。 ●ワイヤーロープに損傷がある時は使用しないで下さい。 ●吊り上げ作業は一点吊りフックのみ使用し、その他の場所（ハンドル等）での吊り上げ作業はしないで下さい。 ●油圧ショベルのクレーン仕様で作業を行う場合、急激な吊り上げ・吊り下げは絶対に行わないで下さい。 ●本機を吊り上げた際、下には絶対に人や動物を入れないで下さい。 ●安全の為、必要以上の高さには吊り上げないで下さい。 ●吊り上げ機械操作時に事故の無いよう充分注意して下さい。また、吊り上げ機械に故障が無いか確認して下さい。	
--------------------	--	---

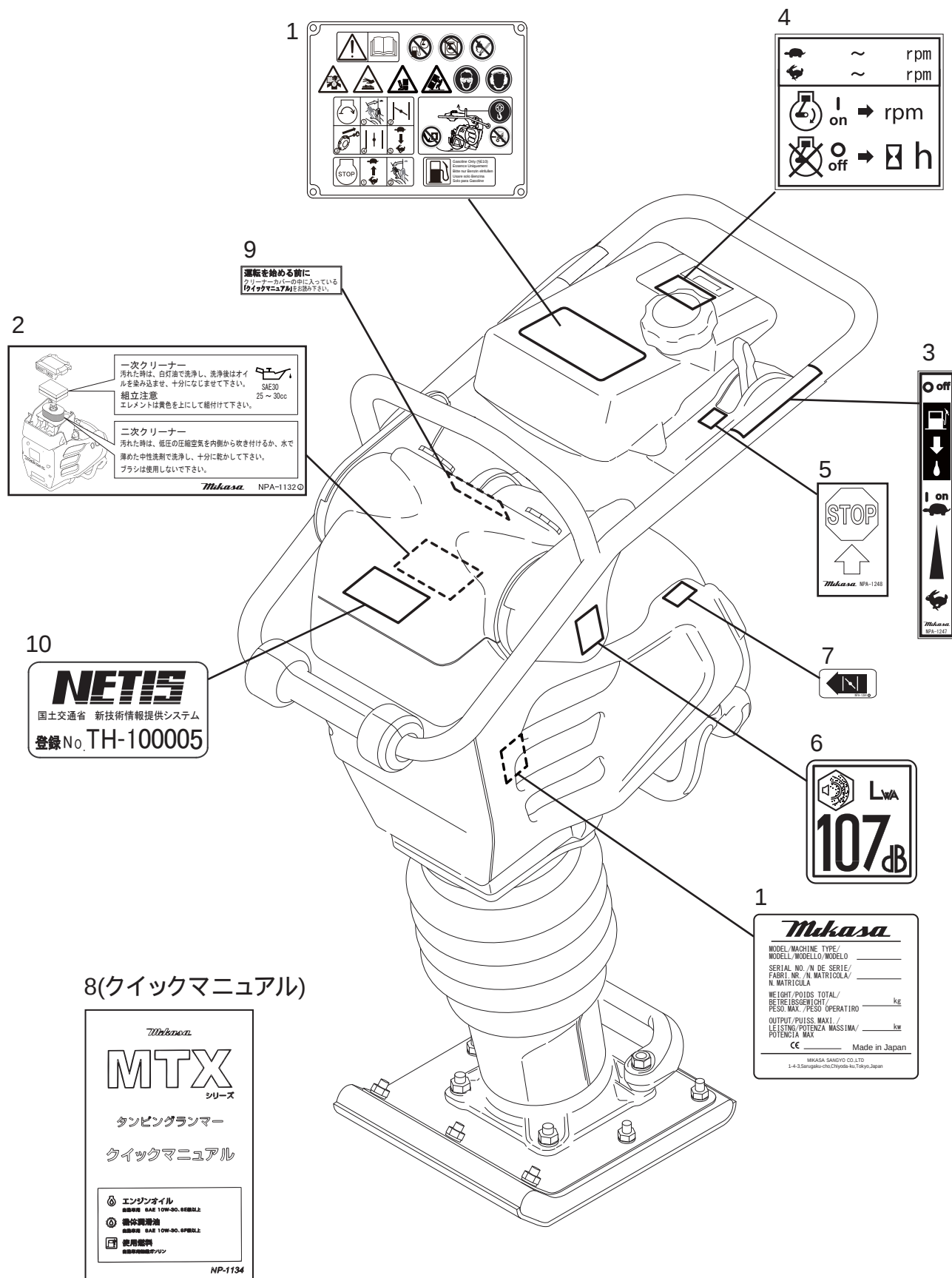
4.7 運搬・保管に関する注意事項

⚠ 危険	運搬時 ●運搬時はエンジンを停止させて下さい。 ●エンジン及び本機がよく冷えてから運搬して下さい。 ●運搬時は必ず燃料を抜いて下さい。 ●本機は水平な場所に置いた姿勢で運搬して下さい。横に倒して運搬するときにも倒す前に燃料タンク・キャブレターから燃料を抜き、タンクキャップ・オイルプラグをしっかりと閉め、キャブレターが上向きとなる方向に向けて下さい。 ●本機が動いたり倒れたりしないようしっかりと固定して下さい。 ●ハンドルを持って本体を持ち上げる場合は、ハンドルと本機の間に指や手を挟まないように注意して下さい。 ●本機は重量物である為、移動の際は専用の移動車をご使用下さい。 保管時 ●本機は水平な場所に置いた姿勢で、エンジンや本機がよく冷えてから格納して下さい。このとき、本機が倒れないよう必要に応じて本機を固定して下さい。やむを得ず本機を横に倒す場合はタンクキャップ・オイルプラグをしっかりと閉め、キャブレターが上向きとなる方向に向けて下さい。倒した後、燃料やオイルの漏れが無いことを確認して下さい。（燃料が漏れる場合は、燃料タンクから燃料を抜いて下さい）	
--------------------	--	--

4.8 整備上の注意事項

⚠ 警告	●安全を確保し、本機の性能を維持する為に、適切な整備が必要です。本機の状態を充分留意し、良好な状態を維持して下さい。	
⚠ 注意	●点検調整は、必ずエンジンを停止してから行って下さい。 ●マフラー、マフラーガードは高温になりますので、熱い時は触れないで下さい。 ●作動油やエンジンオイルは、火傷の恐れがありますので、高温時に整備は行わないで下さい。 ●整備終了後、保安部品の取付及び安全性の確認を行って下さい。特に、ボルト・ナットの点検は充分行って下さい。 ●分解を伴う整備を行う場合は、必ず整備基準書を参照し、安全に作業を行って下さい。	

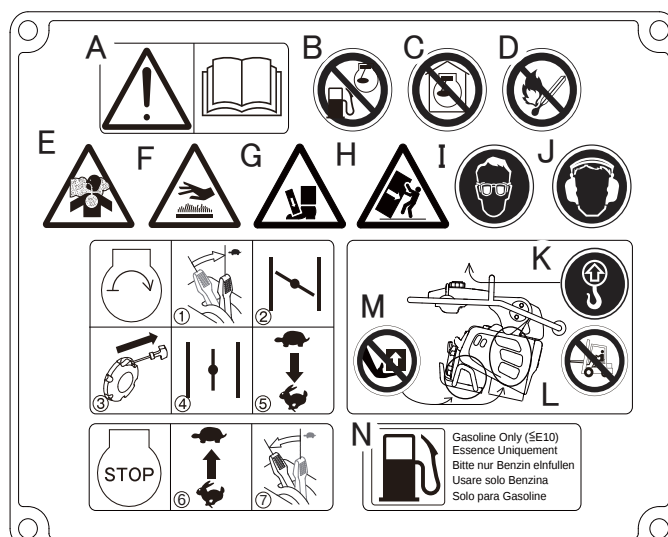
4.9 ラベルの取付位置



図No.	部品コード	名称	備考	図No.	部品コード	名称	備考
1	9202-15440	銘板、操作手順		9	9201-11350	銘板、運転前注意	
2	9202-12460	銘板、クリーナー取扱		10	9201-12610	銘板、NETIS/TH-100005	MTX-60～80
3	9202-12470	銘板、レバー操作		11	9202-16700	銘板、製番/MTX-60E	MTX-60E
4	9202-12490	銘板、回転数指示4100	MTX-60E/FE	11	9202-16710	銘板、製番/MTX-60FE	MTX-60FE
4	9202-12490	銘板、回転数指示4100	MTX-70E/FE	11	9202-16720	銘板、製番/MTX-70E	MTX-70E
4	9202-12500	銘板、回転数指示3600	MTX-80E/FE	11	9202-16730	銘板、製番/MTX-70FE	MTX-70FE
4	9202-12510	銘板、回転数指示3700	MTX-90E/FE	11	9202-16740	銘板、製番/MTX-80E	MTX-80E
5	9202-12480	銘板、STOP		11	9202-16750	銘板、製番/MTX-80FE	MTX-80FE
6	9202-10310	銘板、EC騒音LWA107		11	9202-16760	銘板、製番/MTX-90E	MTX-90E
7	9202-12840	銘板、チョーク操作		11	9202-16770	銘板、製番/MTX-90FE	MTX-90FE
8	9201-11340	クイックマニュアル					

4.10 警告ラベルの絵文字説明

- A. 取扱説明書熟読
- B. 燃料の給油時のエンジン停止
- C. 屋内やトンネル内での運転厳禁
- D. 火気厳禁
- E. 排気ガスによる中毒に注意
- F. 火傷に注意
- G. フート等による足の踏み潰しに注意
- H. 本機の転倒による押し潰し等に注意
- I. 眼鏡等の保護具着用
- J. イヤーマフ・耳栓等の保護具着用
- K. 吊り上げ位置指定
- L. フォークリフト等での直接吊り上げ厳禁
- M. エンジンガードを持ての持ち上げ厳禁
- N. 燃料指定(ガソリン)



操作手順

始動～運転

- ① 調速レバーをアイドルリング (🌀) の位置にして下さい。
- ② チョークレバーを“閉”の位置にして下さい。
- ③ リコイルノブを引いて下さい。
- ④ チョークレバーを“開”の位置にして下さい。
- ⑤ 調速レバーを運転 (🌀) の位置にして下さい。

STOP

- ⑥ 作業終了後、調速レバーをアイドルリング (🌀) の位置に戻して下さい。
- ⑦ 本機の温度が下がったら、調速レバーを停止の位置にして下さい。



製品番号銘板

- ・製品名、本機製造番号、重量、エンジン出力、CEマークが表記されております。

5. 仕様

5.1 本体仕様

※型式の“FE”はフロートキャブレッター仕様

型 式		MTX-60E/60FE	MTX-70E/70FE	MTX-80E/80FE	MTX-90E/90FE
機 体 寸 法 (mm)	全長	713	788 (70FE: 713)		
	全幅	350	350	365	
	全高	1,025	1,027 (70FE: 1,055)		
衝撃板の寸法 (mm)	全長	340	340		
	全幅	265	285		
燃料タンク容量 (L)		2.5			
使用潤滑油		エンジンオイル10W-30			
潤滑油量 (L)		0.65	0.82		
打 撃 数 (Hz) [min ⁻¹]		10.7～11.6 [644～695]	10.7～11.6 [644～695]	10.7～11.3 [642～679]	11.0～11.6 [660～698]
打 撃 力 (kN)		13.6	14.9	15.6	16.5
衝撃板のストローク (mm)		50～80			
音響パワーレベル (dBA)		107			
手腕振動 (m/s ²)		5.2	5.6	5.6	5.5
機 械 質 量 (kg)		64	75	83	89
使用回転数		3800～4100		3400～3600	3500～3700

※機械質量=燃料(燃料タンク容量の1/2)、エンジンオイル・本機潤滑油(規定量)を含む

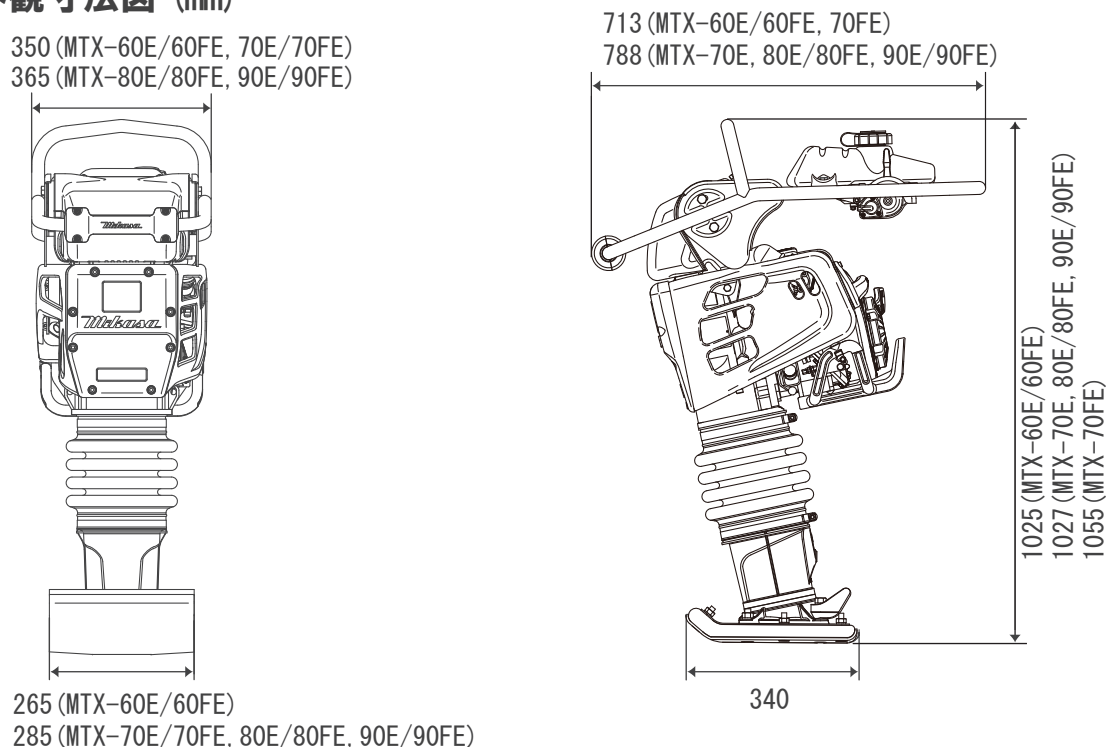
5.2 エンジン仕様

名 称	ホンダGX100	ロビンEH12-2D
型 式	空冷4サイクルガソリンエンジン	
行程容積(cm ³)	98	121
最大出力 (kW/3,600min ⁻¹) [PS/3,600min ⁻¹]	2.1 [2.9]	2.6 [3.5]
使用燃料	レギュラーガソリン	
使用潤滑油	自動車用エンジンオイル(API分類SJ級以上)	
潤滑油量(L)	0.28	0.4
点火プラグ	NGK CR5HSB	NGK BR6ES
始動方式	リコイルスターター式	

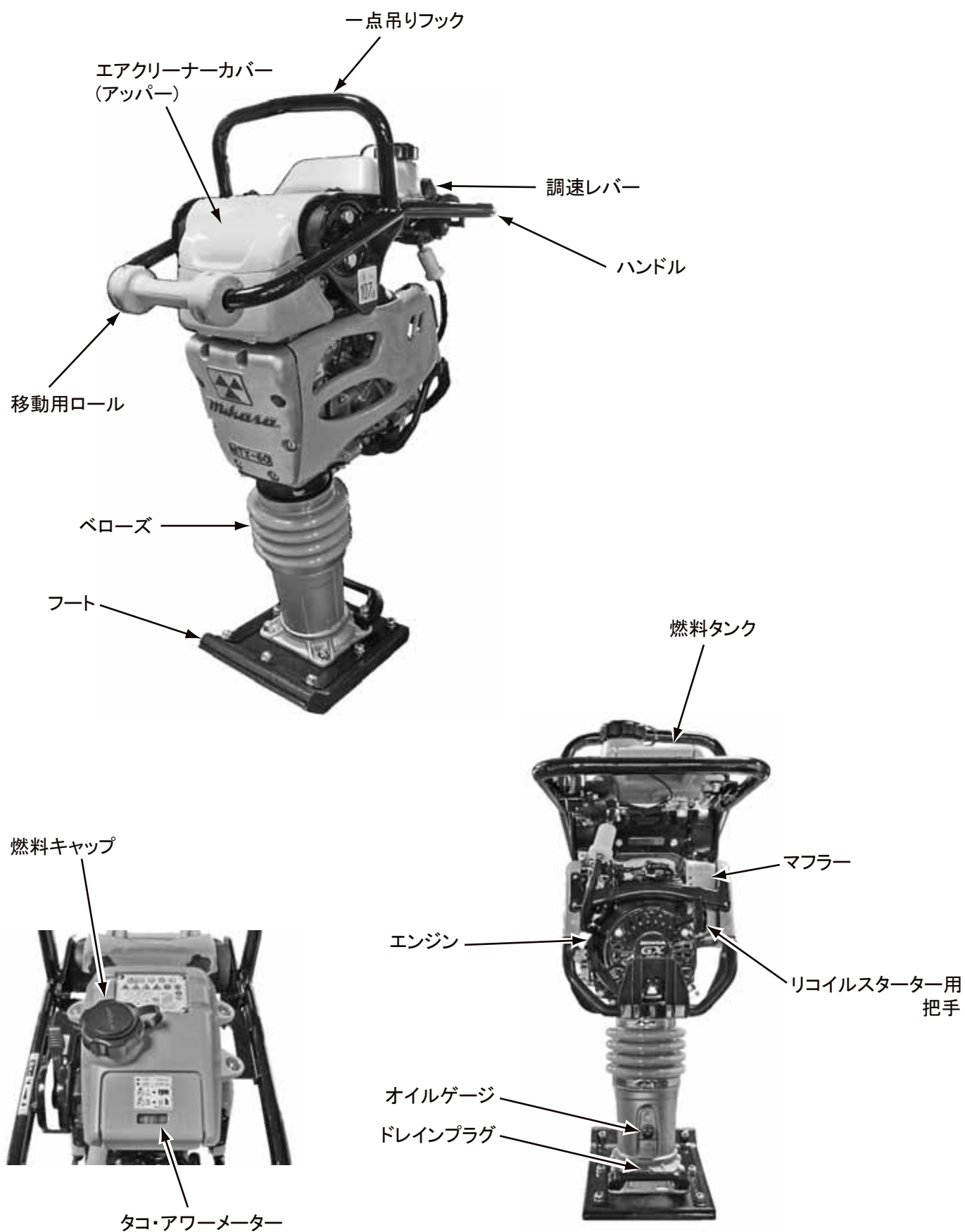
※[]内は従来単位表示

6. 外観図

6.1 外観寸法図 (mm)



6.2 コントロール装置位置及び装置名称



7. 運転前点検箇所



- エンジンを停止させた状態で点検を行なって下さい。回転部に巻き込まれますと、重大な傷害を負う危険性があります。
- 本機の温度が下がってから点検作業を行なって下さい。特にマフラーは高温になり、大火傷をする危険性があります。



作業前各部点検

点検箇所	点検項目
外 観	傷、ゆがみ、汚れ
エアクリーナー	汚れ、傷、変形
ボルト、ナット類	緩み、脱落
ハンドル	傷、変形、亀裂、破損
防振ゴム	傷、変形、亀裂、破損
エンジンオイル	汚れ、油量
本体潤滑油	汚れ、油量
燃料タンク	漏れ、量、汚れ
燃料系統	漏れ、傷、緩み

- 1 各部を綺麗に掃除し、泥・埃の無いように手入れをして下さい。
特にフートに付着した泥、リコイルスターター及びキャブレターの周辺は綺麗にして下さい。
- 2 各部の締付ネジが緩んでいないか確認して下さい。振動のためネジが緩んでいると思わぬ事故や故障の原因になります。

フート取付用ナットと両側及び前部の押え板用ナットの増し締めを行ってください。長期間使用しているとフートが摩耗して隙間が発生し、ボルトが損傷する恐れがあります。必ず、御使用前に増し締めを行ってください。(図1)

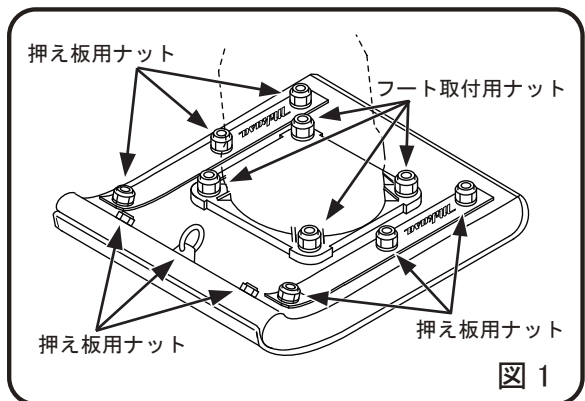


図 1

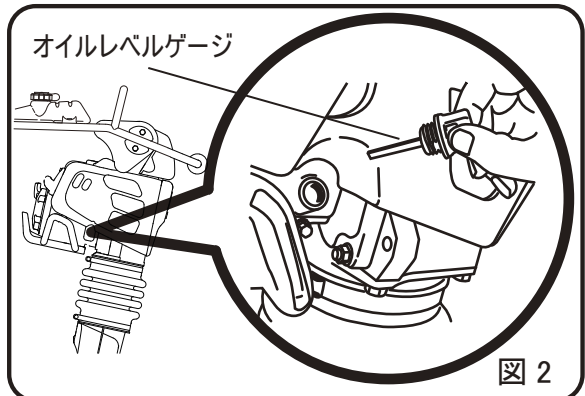


図 2

- 3 エンジンオイル点検の際は、水平（平坦）な場所に立たせた前傾姿勢のまま点検して下さい。
(図2)

潤滑油量が少ないと、運転中の消耗により、エンジン焼き付きを起こします。
潤滑油は自動車用エンジンオイル SE または SF 級以上の 10W-30 を入れて下さい。
その他のエンジン取扱いにつきましては、別紙エンジン取扱説明書をお読み下さい。

- 4 本機を水平な場所に置いて、プロテクトスリーブのオイルゲージを真横から見て、本機潤滑油が規定量入っているか目視で確認して下さい。
(図3)

潤滑油は自動車用エンジンオイル SE または SF 級以上の 10W-30 を入れて下さい。
オイルレベルプラグ、ドレーンプラグの締め付けトルクは $39.2(\text{N}\cdot\text{m}) < 400(\text{kgf}\cdot\text{cm})$ です。

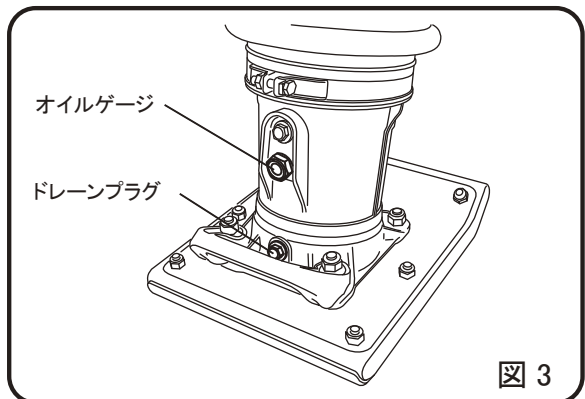


図 3

- 5 燃料タンクへレギュラーガソリン（無鉛）を入れると同時にエンジンオイルも点検し早めに補充して下さい。(図2, 図4)

⚠ 危険 燃料給油中は火気厳禁

⚠ 注意 燃料がこぼれたら良く拭き取って下さい。

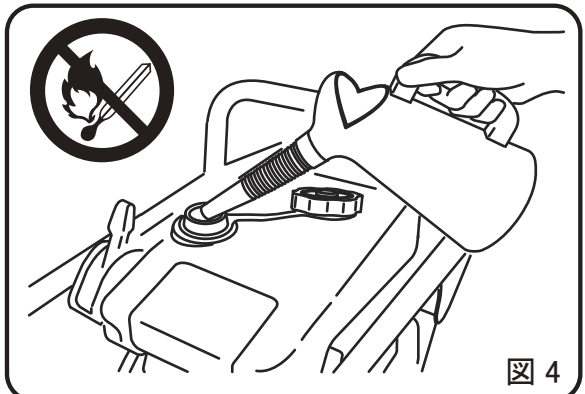
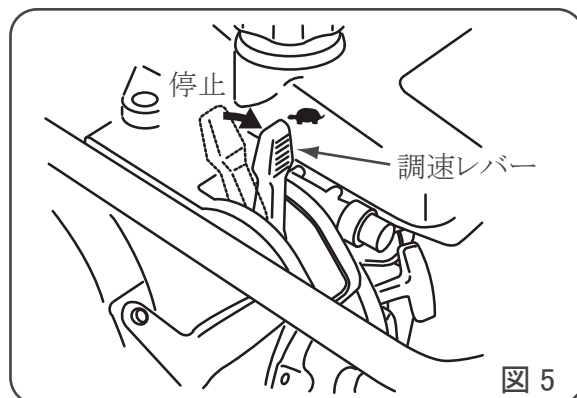


図 4

8. 運転

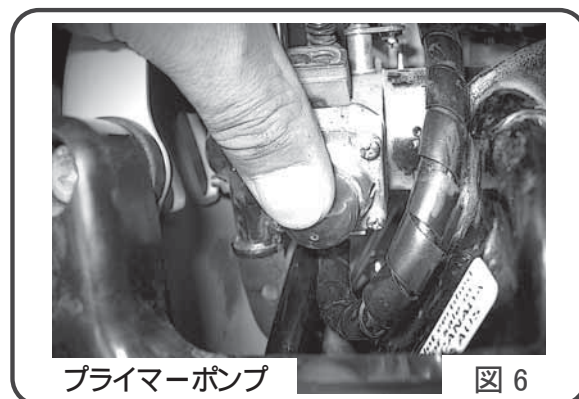
8.1 始動

- 1 調速レバーの位置を停止 [O (OFF)] からアイドルリング [I (ON, 

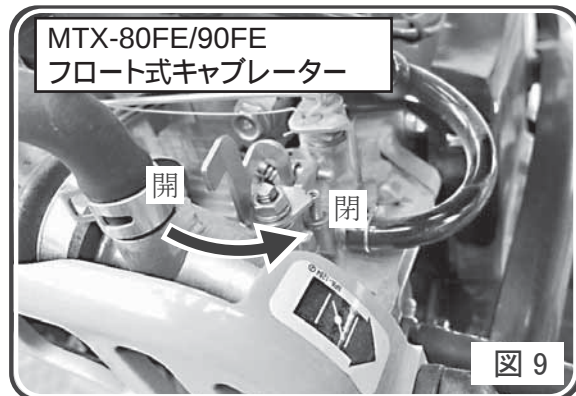
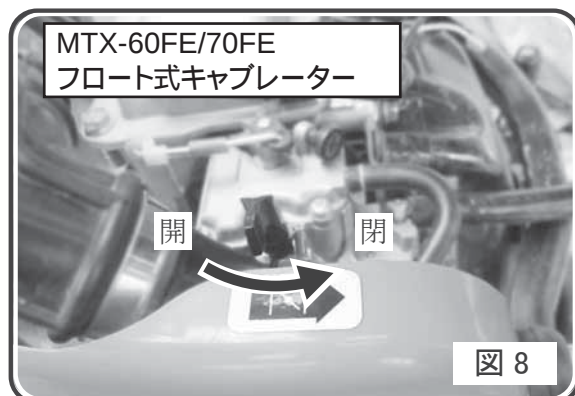
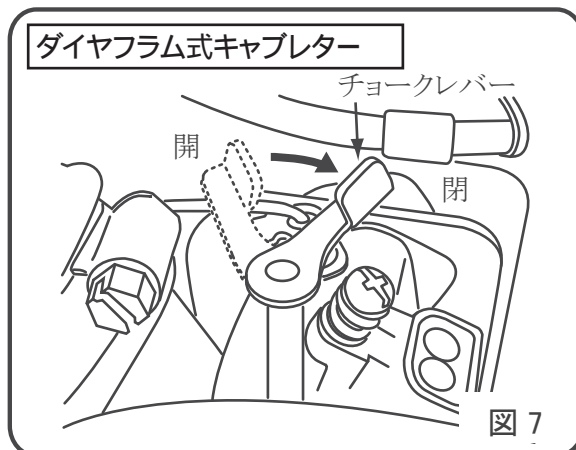


◎ ダイアフラム式キャブレターの場合

プライマーポンプを数回押して、燃料を呼び込んで下さい。(図 6)



- 2 気化器（キャブレター）のチョークレバーを閉じて下さい。チョークレバーは寒い時には全閉にして下さい。夏季またはエンジンが暖まっている時には半開または全開にして下さい。
また、うまく始動しなかった場合にいつまでもチョークレバーを全開のままにしておきますと、燃料の吸込みすぎとなりますので、半開にして下さい。(図 7、8、9)



- 3 リコイルスターターの把手を握り、少し引くと軽く手ごたえがあります。そこから勢い良く引張って下さい。把手を放す時は引張った位置で放さずに、必ずスターターケースの口元までゆっくり戻してから放して下さい。(図10)
- 4 エンジンが始動したら爆発音を聞きながらチョークレバーを徐々に戻し全開にします。始動後は、必ず3～5分間低速で暖機運転を行います。この間にガス漏れ、異常音や異臭がないか点検して下さい。

【注意】 半クラッチで暖機運転をしないよう、回転数に注意して下さい。

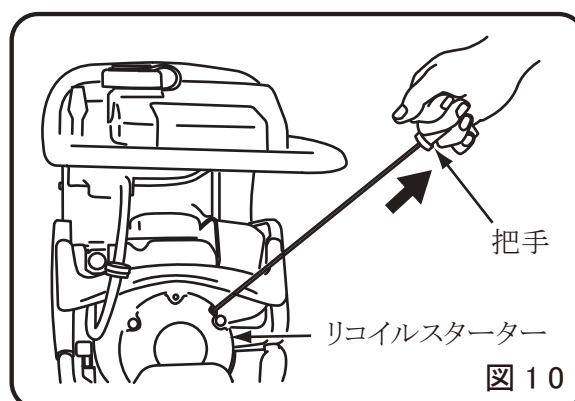


図 10

- 5 始動困難な場合、何度もリコイルスターターを引いてもかからない場合は、点火栓を外しスパークの状態を点検し、燃料の吸込み過ぎで点火栓が酷く濡れていたり、汚れている時は点火栓を取替えるかまたは内部まで十分に清掃して下さい。点火栓を外したままでリコイルスターターの把手を2～3回引いて、余分な燃料を排出させます。

8.2 運転

- 1 调速レバーをアイドルリング(🔌)から運転(🔌)の位置へ開きますと(図11)タンピングランマーが作動を始めます。この操作をゆっくり行いますと作動が不規則になり、クラッチ、バネ、フートを痛めます。

【注意】 この操作が速すぎると、キャブレターの特性上エンジンが停止する事があります。

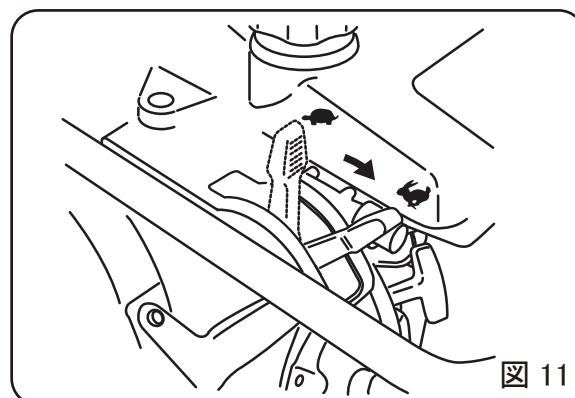


図 11

- 2 作動を始めてから土質に適した跳躍をするよう、调速レバーを多少加減させて下さい。エンジンの回転数が表示されているセット回転数の間の場合、最も効率の良い作業ができます。エンジンの回転数を必要以上に上げても、輾圧力は増えません。バネの共振によりかえって輾圧力が下がり、本機を傷めます。

⚠ 不規則な跳躍をしている時は、本機をすぐに停止させて下さい。

⚠ 警告 傾斜地での使用は、周囲の安全を確認の上、転倒に充分注意して下さい。

- 3 寒い時は本機内部のオイルが硬いので、往復運動部分の抵抗も多く本機が不規則な動きをする事があります。调速レバーを運転からアイドルリングへと繰り返し作動させて暖機運転をよく行ってから作業にかかって下さい。
- 4 フートの接地面には耐摩耗性に優れたメタルシートを使用し耐久性を高めてありますが、グリを打つ場合は目ツブシの土を入れて、フートが均一に地面を叩くように工夫して下さい。
- 5 本機は跳躍しながら前進しますが、より早く前進させたい場合は、ハンドルの手元を軽く押し下げ、本機をやや立たせて運転します。
- 6 作業を中断する時は、作動させる時の反対に调速レバーを急激に運転からアイドルリングへ操作して下さい。(図12)调速レバーはゆっくり動かさないで下さい。

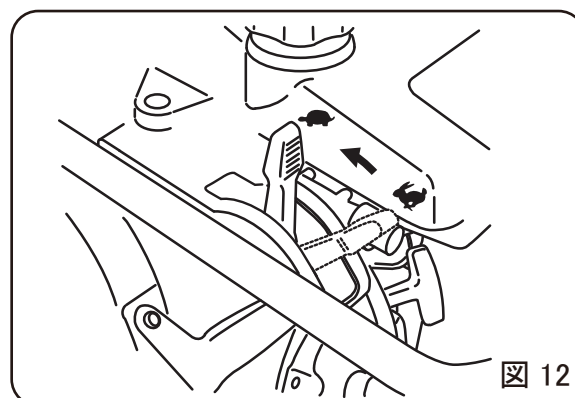
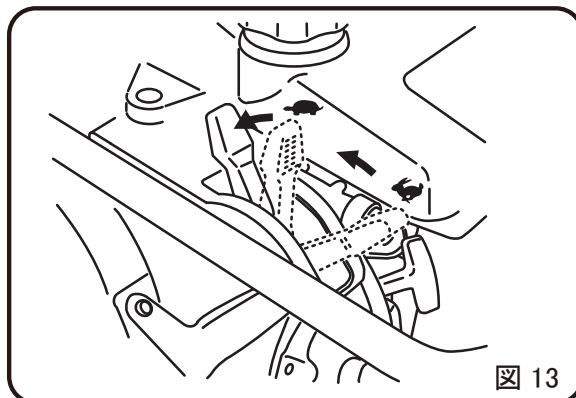


図 12

9. 停止

- 1 調速レバーを高速 (🌀) からアイドル (🌀) へ切り替え、エンジンを低速回転で 3 ～ 5 分間回して温度が下がった後アイドルから停止へ操作して下さい。これによりエンジンが停止し、燃料コックも自動的に閉じます。(図 13)

スイッチの故障等でエンジンが停止しない場合、安全な場所で調速レバーを停止位置にしたままアイドル状態ですばらく放置して下さい。数分でエンジンは停止します。
停止しない場合は、絶縁手袋を着用の上、スパークプラグを抜いて下さい。エンジンが停止します。



10. 手入れと保存

- 1 各部のゴミや泥を水洗いして落として下さい。
- 2 本機は水平な場所に置いた姿勢で、エンジンや本機が冷えてから格納して下さい。この場合、本機が倒れないように必要に応じて固定して下さい。やむを得ず本機を横に倒す場合は、燃料タンクのキャップとエンジンオイルのプラグをしっかりと締め、エンジンや本機が冷えた後に、エンジンのキャブレターが上側を向くように倒して下さい。倒した後、燃料やオイルの漏れが無い事を確認して下さい。(燃料が漏れる場合は、燃料タンクから燃料を抜いて下さい。)
- 3 ゴミ、ホコリがかからないように、カバーをかけて直射日光の当たらない湿気の少ない場所に格納して下さい。

長期保管する時

- スロットルレバーは停止の位置にし下さい。
- 燃料を抜き、注油・オイル交換を行って下さい。燃料ホース内の燃料も忘れずに抜いて下さい。
- エアクリーナーの吸入口、マフラーの排気口をしっかりと覆って下さい。
- 屋内に格納し、屋外に放置してはいけません。

11. 定期点検と調整

11.1 各部点検スケジュール表

点検時期	点検箇所	点検項目	油脂類
毎日 (作業前)	外観	傷、ゆがみ、汚れ	
	エアクリーナー	汚れ、傷、変形	
	ボルト、ナット類	緩み、脱落	
	ハンドル	傷、変形、亀裂、破損	
	防振ゴム	傷、変形、亀裂、破損	
	エンジンオイル	汚れ、油量	エンジンオイル
	本体潤滑油	汚れ、油量	エンジンオイル
	燃料タンク	漏れ、量、汚れ	ガソリン
	燃料系統	漏れ、傷、緩み	
20時間毎	エンジンオイル	初回のみ20時間にて交換	エンジンオイル
50時間毎	点火栓	清掃、ギャップ調整	
	エンジンオイル	交換	エンジンオイル
200時間毎	本体潤滑油	初回のみ50時間にて交換	エンジンオイル
200～300時間毎	ブレアクリーナー	清掃	白灯油
2年毎	燃料ホース	交換	
	インテークパイプ	交換	

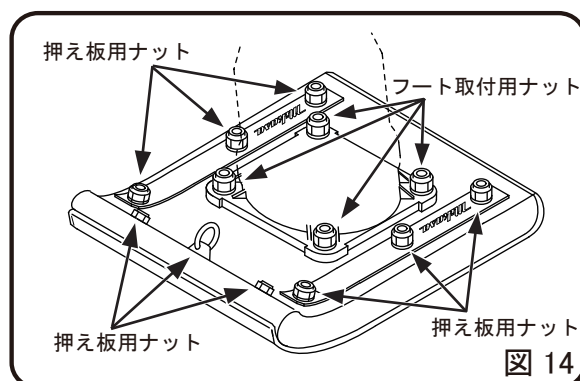
エンジン関係の点検及び整備の詳細につきましては、付属のエンジン取扱説明書を参照して下さい。

11.2 点検及び保全作業内容

1 毎日の手入れ

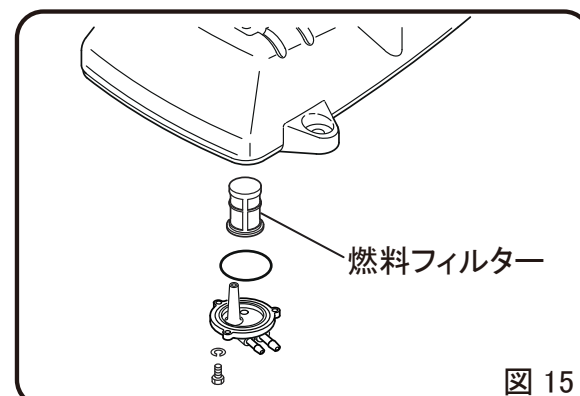
各箇所の泥・埃・油等は綺麗に拭き取って下さい。
また、油漏れのあった所は増し締めし、各部の締め付けを確認して下さい。

フート取付用ナットと両側及び前部の押え板用ナットの増し締めを行ってください。長期間使用しているとフートが摩耗して隙間が発生し、ボルトが損傷する恐れがあります。必ず、御使用前に増し締めを行ってください。(図 14)



2 50時間運転毎の手入れ

燃料フィルターのカップを外し、内部を綺麗に掃除して下さい。(図15)点火栓を取り外し掃除して火花間隔を0.6～0.7mmに調整して下さい。

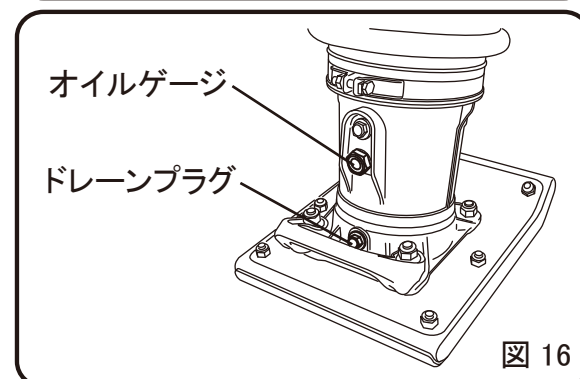


3 潤滑油の交換

本機を水平な場所に置いて、プロテクトスリーブのオイルゲージを真横から見て、本機潤滑油が規定量入っているか目視で確認して下さい。(図 16)

潤滑油は自動車用エンジンオイル SE または SF 級以上の 10W-30 を入れて下さい。

オイルレベルプラグ、ドレーンプラグの締め付けトルクは39.2(N・m)<400(kgf・cm)>です。



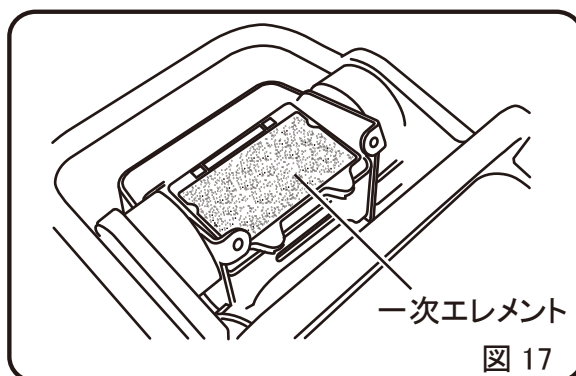
4 エアクリーナーの清掃

本機のエアクリーナーカバー(アッパー)を外し、エアクリーナーAY本体のカバーを固定している十字ビスを2本外してカバーを開けて下さい。

a. 一次エレメント (80 ~ 100 時間毎)

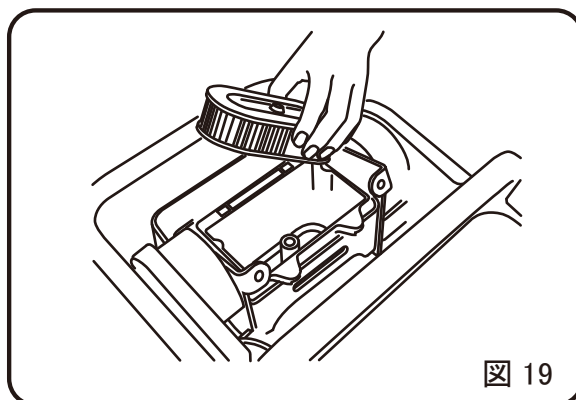
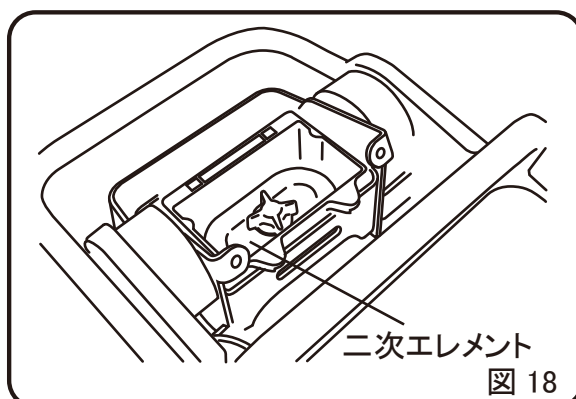
一次エレメントが汚れた時は、ガソリン又は白灯油で洗浄し、エンジンオイル SAE10W-30 に浸し固く絞って下さい。(25 ~ 30cc 程度残るようにして下さい。)

(図 17)



b. 二次エレメント(100~150時間毎)

一次エレメント下部の二次エレメントが汚れた時は、中性洗剤で洗浄水洗いし、よく乾燥させてから使用して下さい。(図18、19)



5 燃料パイプは必ず点検し、損傷したり取付部が緩んでいないか確認して下さい。

点検時に異常が無くても、燃料パイプは2年で交換して下さい。

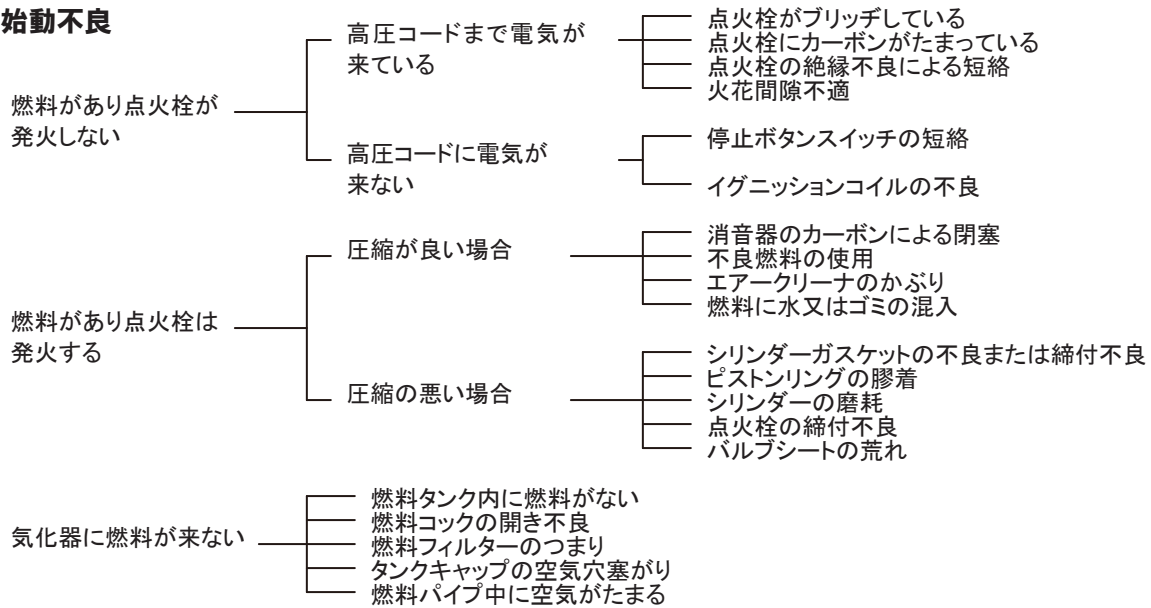
6 本機洗浄時の注意

特に高圧スチーム機で洗浄する場合、エアクリーナー、キャブレター、マフラー、タンクキャップに直接水をかけてはいけません。エンジントラブルのおそれがあります。

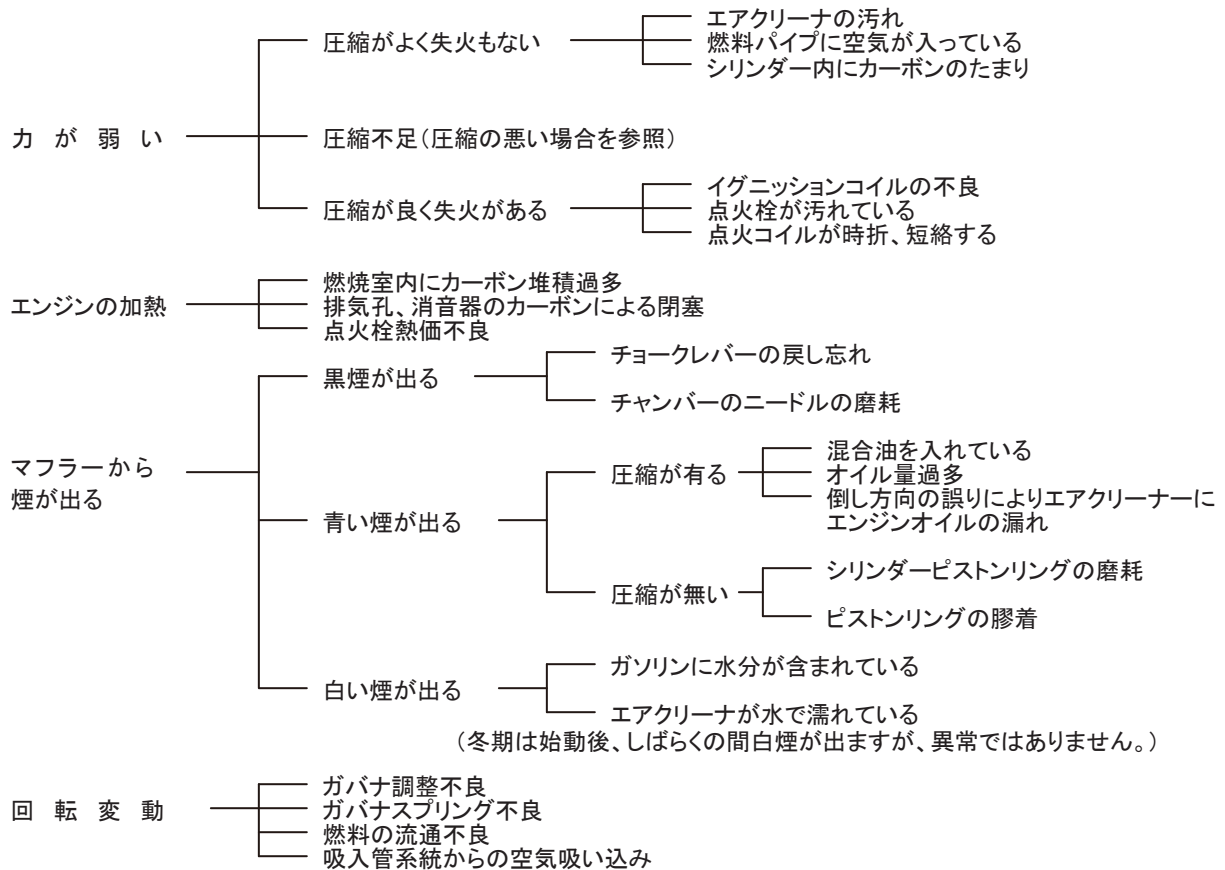
12. トラブルシューティング

1. エンジン

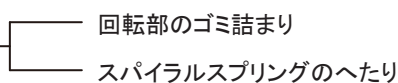
(1) 始動不良



(2) 運転不調の場合



(3) リコイルスターターの動きが悪い



2. 本機



Mikasa

MIKASA SANGYO CO., LTD.

1-4-3,Kanda-Sarugakucho,Chiyoda-ku,Tokyo,101-0064,Japan

三笠産業株式会社

〒101-0064 東京都千代田区神田猿楽町1-4-3

修理に関するお問合せ

TEL 048-734-2402 FAX 048-734-7678

部品に関するお問合せ

TEL 048-734-2401 FAX 048-736-6787

その他のお問合せ

info@mikasas.com

Web パーツリスト

<https://www.mikasas.com/MIKASA/index.html>



PRINTED IN JAPAN